

科目区分：生家具環境コース・学校教育実践コース（家政教育専修）

科目名：衣生活論（2015）

## 平成27年度「授業評価・授業研究報告」

家政教育・眞鍋 郁代

### 1. 授業の基本情報・概要

本授業は学校教育教員養成課程家政教育専修および総合人間形成課程生活環境コースの専門科目として2年次後期の選択科目となっている。

本授業は、2回生開講の専門科目の選択であるが、受講生は2回生16名、3回生4名の計29名であった。

衣服のはたらきを学習し、ここで得た知識を自身の快適な衣生活のために生かすことを目標としており、講義形式の授業で衣服材料の成り立ちや性能、原理などについて発問形式を取り入れてまず気づきの場面を入れ、配布資料などを読んで確かめ、図・写真によってわかるように工夫し、さらに簡易な実験やモノづくり等によって考え・応用できるように組み立てている。授業時間外の学習を促す試みとしては、学生がどの程度の能力と知識を持っているかに注意を払い、最初は学生が持っている知識・技術で取り組める課題とし、個人で取り組む課題・グループで取り組む課題、少々骨が折れる課題を用意した。

<授業スケジュール>

1. ガイダンス、デザインについて
2. 認知イメージ、評価法（SD法）について
3. デザインに関する評価実験考案
4. 実験試料の準備・製作
5. 実験結果の口頭発表（パワーポイント等）
6. 衣服の保健衛生的機能に関する学習
7. 布の吸湿性について（解説・実験）
8. 布の通気性について（解説）
9. 布の通気性について（実験）
10. 繊維の性質を利用した学習
11. 衣料リサイクルに関する学習
12. 布の保温性について（解説）
13. 布の保温性について（実験）
14. 製作実習（裂き織りの紹介）
15. 試験・まとめ

### 2. 授業評価・授業研究の内容

調査項目を以下に述べる。またそれぞれの質問項目における回答人数も（ ）内に併記した。

履修登録人数は20名であったが、2名が履修を途中で取りやめたなどがあり、最終的には授業アンケートに回答した学生数は15名となっている。

A あなた自身についてお聞きします。

(1) この授業にどのくらい出席しましたか。

- ①全部（8名） ②1,2回欠席（4名）  
③3,4回欠席（1名） ④5回以上欠席（0名）  
⑤わからない（2名）

(2) この授業に関して授業時間外の学習時間は1回の授業ごとにどれくらいしましたか。

- ①2時間以上（4名） ②1～2時間（6名）  
③30分～1時間（0名） ④30分未満（4名）

(3) 授業に対して意欲的に取り組みましたか。

- ①十分に取り組んだ（6名） ②かなり取り組んだ（6名）  
③普通（3名） ④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

(4) この授業を履修した理由

- ①科目名（7名） ②担当教員（2名） ③シラバスの内容（4名）  
④時間割の都合（2名） ⑤その他〔自由記述〕（0名）

B 授業についてお聞きします。

(1) 先生の話し方（言葉・声の調子など）は適切でしたか。

- ①そう思う（10名） ②どちらかといえばそう思う（5名）  
③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名）  
⑤そう思わない（0名）

(2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか。

- ①そう思う（10名） ②どちらかといえばそう思う（5名）  
③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名）  
⑤そう思わない（0名）

(3) 先生は学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。

- ① そう思う (9名) ② どちらかといえばそう思う (6名) ③ どちらともいえない (0名) ④ あまりそう思わない (0名) ⑤ そう思わない (0名)

(4) 配布資料、教科書などの教材は適切でしたか。

- ① そう思う (10名) ② どちらかといえばそう思う (5名) ③ どちらともいえない (0名) ④ あまりそう思わない (0名) ⑤ そう思わない (0名)

(5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか。

- ① そう思う (11名) ② どちらかといえばそう思う (4名) ③ どちらともいえない (0名) ④ あまりそう思わない (0名) ⑤ そう思わない (0名)

(6) 授業の内容は理解できるものでしたか。

- ① そう思う (11名) ② どちらかといえばそう思う (4名) ③ どちらともいえない (0名) ④ あまりそう思わない (0名) ⑤ そう思わない (0名)

(7) この授業を全体的にみたときに、どの程度満足していますか

- ① 満足している (7名) ② どちらかといえば満足している (8名) ③ どちらともいえない (0名) ④ あまり満足していない (0名) ⑤ 満足していない (0名)

(自由記述)

【この授業を受けて①最も印象に残っているところや内容、②初めて知ったことなどを具体的に挙げてください】

※主なものとして以下のようなコメントがみられた。

- ① 実験内容が豊かだった。(個別の実験に対する具体的な記述あり)  
② 各種の実験方法について (SD 評価法を用いた実験, 布の通気性や保温性を確かめる実験), 衣服の保健衛生的機能について (保温性能には種類があったのか, など)

### 3. 「授業時間外学習の促進」について

今年度の授業では、「授業時間外学習の促進」を目的として課題に難易度や方法などに自由度をあたえることを試みたため、受講学生にとっては課題への取り組み負担は大変だ

ったのではないかと思われたが、課題の口頭発表やレポートなどの報告内容を見ると、個人でもグループでも、課題に関係する書籍や文献、web 情報を広くあたっており、より深く調べようとする姿勢がみられ、また、課題や授業内容に関する質問を受ける機会が以前より多くなるなど、これまでにない変化がみられた。

しかし、学生からのアプローチに対して教員側がちゃんと対応できたのかとふりかえてみると、不十分であったように思われた。

「授業時間外学習の促進」について考えると、学生への課題について考えていくだけではなく、課題を出した後の対応が重要であることが抜け落ちていたように思われた。

学生から課題を提出してもらった後のフィードバックについて、すぐに何らかのフィードバックを行うなどの改善を、次年度以降取り組んでいきたいと考えている。

フィードバックについては、すぐに採点、コメントして返却するのが理想的であるが、なかなかそうもいかないときも多い。しかし課題を出しても教員側から反応が返ってこない学生は課題を通じて学ぶ意欲を減らしかねないことを心に留め、何らかの形でフィードバックをする工夫を考えていきたい。

### 4. 総括

2015 年度後期は他専修の学生も含め 20 名の履修登録があったが、最終の筆記試験までたどり着いた学生は 18 名だった(ただし授業アンケートは 15 名)。受講学生にとって、途中の課題や提出レポートが今年度は多いと感じられたためかと思うと少し悔いが残るが、その他の大半の受講学生の取り組み姿勢(自主的に、より良い方向に自ら工夫しようとする)には非常に驚きを隠せなかった。これは残念ながらこちらの指導方法の改善の成果というよりは、学生の学年によってこんなにも授業が変わるのかといった類のように思われたが、授業を提供する側としては、適切な課題について厳選し続けることと、課題に対するフィードバックの充実を目指すことで、さらなる「授業時間外学習の促進」へつなげたいと考えている。